

放射性同位元素研究支援分野

分野長 静間 清

放射性同位元素研究支援分野は、アイソトープ・放射線関連の学内中枢支援施設としての役割(学内共同利用研究支援,教育訓練,放射線の総合的安全管理と環境保全)はもとより,学外の放射線関連施設と連携した放射線の総合的安全管理・教育を行うことが求められている。放射線の取扱いにあたっては、特に、関係法令(放射線障害防止法、労働安全衛生法)の遵守が義務付けられているので、法令を遵守した放射線の安全管理のもとに教育研究支援を行っている。

(1) **研究支援**として学内の利用者(利用登録者)のために放射線管理区域内の研究場所および各種の研究機器の提供,利用者の被ばく・健康管理および各種の証明書の発行,先端研究のための最新情報の提供と学際的研究を希望する組織活動の促進・コーディネート,学外利用者のための場と機器および技術の提供を行う。

(2) **教育活動**として,学内の放射線利用登録者の法律に基づいた教育訓練(対象は教官を含む),大学院・学部学生への放射線関連研究の講義・演習や実習,学外の各種の放射線使用業務従事者を対象とした講演会,講習会等の企画・支援,さらに,博士研究員,大学院生の指導を行う。

(3) **研究活動**として,専任教官は独自の研究テーマを設定し,最新の放射線測定技術の開発や新しい RI 利用技術の開拓,また RI を用いた生命科学分野の先端研究に従事する。

(4) **放射線管理と環境保全業務**として,各研究者の利用する放射性物質の管理,廃液等の処理,環境放射線のモニター,利用者の被ばく管理,環境保全業務などに関する対外的対応の中心的役割を担う。

(5) **全国規模の放射線関連業務への支援・協力**として,社会啓発活動,全国あるいは地域の放射線取扱主任者部会や研修会などでの指導,全国のアイソトープ施設とのネットワーク作りなどを行う。

(6) **緊急被ばく医療推進センターの協力機関**として役割を担う。広島大学は平成 16 年度に原子力施設及び放射線利用施設等に係わる事故の発生に備えて三次被ばく医療機関としての指定を受け,原医研に緊急被ばく医療推進センターが設置された。当分野は物理学的線量評価において協力してゆく。

放射性同位元素研究支援分野は平成18年度より自然科学研究支援開発センターの改組により「アイソトープ総合部門」として再出発する。今後とも,アイソトープ・放射線を用いる研究者が大いに成果をあげられるよう支援を行ってゆく予定である。そのためには,今後,大型研究機器や最新機器の導入が緊急の課題であり,利用者各位のより一層のバックアップをお願いしたい。